

令和4年度第3回「北海道オホーツク地域等公共交通活性化協議会」 議事録

日 時	令和5年（2023年）2月14日（火） 14：00～15：15
場 所	美幌町民会館 3階 中ホール
出席者	別添名簿のとおり
議 事	1 会長挨拶 開会に当たって、会長から挨拶。
	2 冒頭説明 事務局長から冒頭説明。 ・ 定足数の充足により会議が成立 ・ 議事録は後日公表予定
	3 議事（1）報告事項「これまでの会議の開催概要について」 資料1に基づき、事務局員から説明 ・ 第2回協議会において骨子案を提示したところ ・ 分科会及びワーキンググループにおいて、現状、課題、基本的な方針、施策等を具体的に整理 【質疑・意見】 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
	4 議事（2）審議事項「北海道オホーツク地域等公共交通計画原案について」 資料2に基づき、各章の記載について事務局長から説明。 ・ 1章 はじめに ・ 2章 地域の概況 ・ 3章 管内の公共交通の概況 ・ 4章 地域における利用促進の取組 ・ 5章 地域の移動特性・ニーズ ・ 6章 地域公共交通をとりまく現状と課題 ・ 7章 基本的な方針及び計画の目標 ・ 8章 目標を達成するための施策・事業 ・ 9章 計画の達成状況の評価  (アドバイザーによる補足説明) 3年前から調査を進めてきただけあり、現状と課題がしっかりと記載でき ており、事務局が丁寧な意見交換を行ってきたことは評価している。一定の 方向性は示すことができたので、これを機に、さらに活発な意見交換を行っ てほしい。 人口減少が進んでおり、どのように地域の活力を支えていくか考える必要 がある。その際、生活圏交通のみならず、広域交通である航空や鉄道、路線

バス等の移動手段のほか、観光の視点なども踏まえてほしい。現状の交通に満足せず、将来を見据えて地域に必要なものを一緒に考えていきたい。

(意見交換)

#### ■ J R北海道

平成 30 年の国の監督命令は、当社に対し、石北線を含めた利用の少ない線区について、利用促進のみならず経費削減も求めており、これを受け、アクションプランにおいて経費削減にも取り組んでいる。加えて、当社単独では維持困難な線区の中では、石北線の収支状況が最も悪い。もう少し経費削減について記載していただけるとありがたい。

また、石北線の営業損益の記載について、上川～網走間の数値のみの記載となっており、全区間（新旭川～網走間）の数値ではないと思われる。

#### ■ PTA 連合北見支部

客商売では人口減少がダイレクトに業績に影響するもの。組織ごとに立場があると思うが、立場の垣根を乗り越えて、人口減少やコロナ禍といった課題解決に向けて協力する必要があると感じている。

#### ■ 私鉄総連北見バス支部

バスの運転手不足の記載があるが、実際に、近年は募集しても希望者が集まらない状況である。運転手という職業の魅力を発信する取り組みについて、皆様から助言いただけるとありがたい。また、管内では、バス事業者によって初任給に格差が生じており、人件費の増額に向けたご協力やご支援をお願いしたい。

#### ■ オホーツク観光連盟

観光客の移動手段としては、冬季は公共交通の利用が増える。最近増加傾向にある個人旅行者は、低価なバス利用が多いようだ。

観光庁が、訪日外国人が旅行中に困ったことを調査したところ、意思疎通や無料 Wi-Fi に次いで、公共交通と回答した方が多かった。在来線鉄道やバスを利用した方に絞ると、切符購入時の意思疎通、車両や乗降場所の確認、車内の狭さ、ルート検索の難しさなどの項目が多く挙げられていた。訪日外国人も日本人も感覚は変わらないはずであるので、シームレスな乗継環境改善などの実現に向けて参考にしてほしい。

■北見市

計画案を作るに当たって、乗降や経路など良い情報が共有できた。広域の公共交通は行政だけで維持することはできないので、今後も事業者や利用者の皆様の声を聴きながら考えていきたい。

■紋別市

議論の中で、組織によって考え方が違うことを改めて感じた。先日、高橋教授からのご指摘があったが、計画を作るだけでなく、計画をもとに随時見直しを行っていきたい。

【質疑・意見】 あり なし

5 全体総括

■北見工業大学・高橋教授

計画原案の作成に当たってご尽力いただいた関係各位にお礼申し上げます。

計画原案にも記載があるとおり、公共交通の現状は厳しいものがあるが、本協議会の皆様は、この状況を打開しようという気持ちを持っていると感じている。

計画原案の中で、利用者の減少といった需要サイドだけでなく、運転手の確保など供給サイドについても触れられ、両サイドの共創に関する記載があること、また、供給サイドとして「地域住民」が記載され、利用者の役割が考えられていることは先駆的である。

制度や技術の進歩により、5年後、今までにない公共交通が実現される可能性もあるので、今回の目標値やその考え方にこだわることなく、見直しに努めてほしい。

計画により管内を俯瞰できたと感じており、振興局や道本庁が中心となり、幹線交通の今後を見据えていくという役割が明確になった。自治体も振興局に対し、積極的にアイデアを提供してほしい。

■会長

計画を策定して終わりにならないよう取り組んでいきたい。

いくつか意見をいただいたが、修正が必要なものについては、会長一任とし、計画原案をご承認いただけるか。

(構成員の承諾により計画原案決定)

<p>その他</p>	<p>(北海道エアポートから情報提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 航空業界では、コロナ前は、ビジネス利用がメインだったが、最近はテレワークの浸透もあり、観光や地域振興が重要と感じている。</li> <li>・ 今年は2019年比で8～9割程度の月があり、需要は戻ってきている。</li> <li>・ 海外に目を向けると、ホノルル空港では、網走市内を運行するAIデマンドバスに似た交通手段があり、本地域でも、ストレスフリーで利用できる交通手段が必要と考えている。</li> </ul> <p>(今後のスケジュール)</p> <p>事務局次長から、今後の協議会スケジュールについて説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第6回分科会において、意見募集（パブリックコメント）の結果への対応及び計画案を検討</li> <li>・ 第4回協議会において、計画案を審議</li> </ul>
------------	--

以 上